

特集 tokusyu

遠藤凌子の仕
えんどうりょうこ

使い古した素材 クラフトの新しい世界



こんにちは…

数々の失敗を重ねながらも15・6年仕事に走ってきた私ですが、ふと気づいたら身体も心も少し疲れが出ていることに気がついたこの頃です。健康が私の自慢でしたので、年を重ねるということと自分を労ることの大切さを感じています。

このところ忙しい合間をぬって歯医者通いをしています。余裕のあまりない一人用の治療椅子に腰を下ろし白い布をかけられて治療が始まるのですが、少し痛い治療に不安を感じながらも観念しなければならぬ様子に、なにかこの先の自分の人生と重ねあわせたりしています。ちよつとした角度から自分の先を覗くような不安、これは歳をとった証拠でしょうか…。

そんなわけで不安不安の自分を人形にしてみました。

遠藤凌子



座談会

遠藤凌子
の仕事

使い古しのものが好き。 自分にしっくり来るから使う。

出席

遠藤凌子
クラフト作家

星川晃一
阿部蒲鉾店会長

長田洋子
「仙台っこ」発行人

長田 星川さんが遠藤さんの作品を最初に見たのはいつ頃ですか。

星川 だいぶ前に仙台新港で東北博覧会があり、うちでも展示会場にブースをひとつ割り当てられて、遠藤さんに鯛を抱えた恵比寿様を作ってもらったのが最初。これが好評で、博覧会が終わった後もしばらく店に飾っておいたんですよ。初めてああいう作品に出会って、新鮮というか、自然な迫真性に感激しました。

長田 遠藤さんは依頼を受けると、まずどんなことを考えるんですか。

遠藤 作るものに自分を乗せるのが一番先ですね。形がどうかなんていうのは、作る過程で自然に出てくることなんです。音楽をジャンジャンかけて、気分を乗せたりします。

星川 どんな音楽？

遠藤 クラシックが多いです。演歌も好きだけど、演歌は泣けてくるから駄目なの（笑）。



遠藤凌子さん

星川 木で観音様を彫るとき、作るんじゃなくて木の中に埋まっている観音様を掘り出す気持ちで、というのはいく聞きませぬ。そんな感じなの

かなあ。松島の瑞巖寺のそばに、うちの支店があるんです。遠藤さんの作品を、今度はその辺に飾らせてもらおうと、頼んでいるところなんです。松島だから芭蕉とか曾良の人形。

遠藤 プレッシュヤーかかっています（笑）。

長田 木の皮とか魚の皮とか、ほかの人なら「ミミ」にするものも、よく使ってますよね。

遠藤 「ミミ」と言われると困るんです。エコロジーとか気負った気持ちもまったくない。ただ自分にしっくり来るから使うだけで、使い古しのものって好きなんです。素材感や質感など、歩き回って探すことも始終あるんですよ。

人に押しつけられるのが嫌なんです。たとえば油絵だったら、油絵をいかに画材屋さんがたくさん買つかでその人の価値が上がるみたいな、そういうのが嫌だった。自分で素材を発見して挑戦す



る、そんなところから始まったんですね。

長田 今までに見つけた素材で筆頭といったら何ですか。

遠藤 紙ですね。使い古した米袋。

星川 いつか、うちの包装紙で軍靴を作ってくれたことがありますね。一度使った包装紙で。あまり大きくはなかったけれど。

長田 遠藤さんの作品はいろいろ見ましたが、鮭の皮を使ったものには驚きました。

遠藤 魚の皮は面白い。今もときどき注文がきます。鮭、ボラ、鯛のよつな魚の皮。

星川 まず素材があつて、それから作るの？それとも作るために素材を探すの？

遠藤 素材が先ですね。素材を見ているうちに考えが浮かんでくる。よく魚の卸屋さんへ行つて皮だけもらつて、冷凍しておいて、使つと乾燥

させます。宮城県の鮭は北海道のに比べて脂身が少ないうちが扱いやすいんです。靴、ハンドバッグ、ケースなんか作りました。ちゃんとした工場があれば、もっと広くやれるんですけどね。

長田 あら、じゃあ阿部浦さんなんか。

星川 いいですね。うちは魚たくさん使いますから、それを利用することは考えられるかもしれない。

長田 遠藤さんは北海道の出身ですよ。仙台に来て何年ですか。すぐにクラフトで身を立てようと思つたんですか。

遠藤 15、6年になります。しばらくは広告代理店に勤めてグラフィックデザインをやつてたんです。それまでも作つていたんだけど、きつかけは

東北博のときの阿部浦の星川さん。自分が作つた人形を認めてもらつて、お金を払ってもらつたというのは初めてだったから、私には画期的でした。

長田 ずっと以前、和紙でステイビート・ワンダーの人形を作っていましたね。

遠藤 自分ではニューオーリンズの黒人歌手のような雰囲気は好きなんです。でも注文がない。卵の殻を使った、口を開けて歌っているようなのはけつこつ注文があるんですけどね。あれは、あまり考えずに、ひよいとできちゃった作品なんです。思い付きのようなのは注文が来て、力を入れたのが無視されるといふのは、作つた者としてはちょっと残念なんです。

星川 作者の思いと受け手の思いは違つたんですね。私は遠藤さんは詩人だと思いますよ。子どもが作品をまじまじ見ている。子どもを引きつけるものを持つてるんです。

遠藤 詩人と言われると困るんですが、作家と言われるのも嫌なんです。ふだんはお金のことかけつこつ考えるですよ。でも作つてるときは何もいらぬ、雨風しのげればいよいよやつて気になつちやう。

長田 ものを作る人つて、熱中するごほかのことはどうでもよくなつてしまつたのね、きつこ。

遠藤 クラフトに使う木の実を卸屋中に干して、直射日光でビビが入らないように窓ガラスに新聞紙貼つたりしたこともありました。怪しまれたみたいですが（笑）。窓は開けられないし、暑くて大変なんですけどね。でも銀行には助けてもらいましたね。三百万の仕事やるんなら手元に百万ないといけないんですよ。悩んで、ある銀行に相談したら、何とか貸してくれた。私の申告状態でよく貸してくれたと感謝してます。

星川 遠藤さんの作品の価値がわかったんですよ。その銀行は大したものです。金融会社ってもともと芸術に対する理解が少ない。利益につながるかどうかを優先しますから。

長田 農村部でもいろいろやっているんですよ。

田洋子 遠藤 稲ワラとか木とか野菜とか、素材がたくさんありますから。農村婦人部のようなくらで産直クラフトの作り方を指導しています。

でも、未成熟で売れない果物でも、角度を変えるとすごく面白い発見がありますよ。デザインの仕事をしていたときから、中間山地とのつながりはできていたので。

星川 こ

れからど

んなものをやりたいですが。

遠藤 シリーズで、昔の暮らしを彷彿させるような人形を作ってみたいですね。10月に丸善で「ふるさとブックフェア」って全国の新聞社の地方出版物フェアがあるので、宮城の酒屋の雰囲気を入形で作ると、作っているんです。

藩政時代の酒蔵の仕込み風景とか。そういうのをもってやりたいんですが、作らせてくれるスポンサーが少なくて。提案はするんですが。

星川 私 生まれは四国なんです。郷里の山中にレジャーセンターのようのができて、平家物語の人形が呼び物になってます。壇ノ浦や屋島など



戦場があつたところですから。和紙で作ってますが、わざと照明を落として、滅びゆく平家の怨霊みたいな不気味さが漂っている。遠藤さんのような作品はアメリカなんかでも受けると思っな。

長田 そう。夢はアメリカでも個展も加えたら。

遠藤 ネイチャークラフトは欧米ではいろんな形でなされてますけど、私は個展をやることはまだ、考えたことないですね。

長田 自分の作品を作るといっつより、注文を受けて作ることが多いんですね。

遠藤 芸術家ではないから。商業美術というのは、そういう面が多いと思います。絵画のような、残しておいて価値が出るものではないですが、瞬間的といっつが、消耗品的なところがある。でも、最近はおきなことをやるつと思つことはあります。反面、お金ためて自分の気に入ったアトリエ作りたいなつても思つてる。でもなかなか貯まらないですね。

星川 遠藤さんがぶつうの人と同じだったら、いいものが生まれませんよ。ものを作る人は蓄財に一生懸命になつては駄目なの。今のままでいいんです。

遠藤 …でも、アトリエは建てたい！欲しい、欲しい、欲しい！！

人形をつくる

イメージづくり



針金で骨格をつくり、布を巻いて透明人間状態に。その上に和紙で張子していく。

張子



完成

絵づけをする



いくつかのイメージの中から表情を決める



服を着せて、髪の毛をのせる。

完成

い草でリース（畳をつくる時の立ち端を畳屋さんでもらって）



1 ベースを先にまとめる。すくすくりすかに巻く。くさくさの部分がよい



2 水けた風呂敷をいっしょに巻き添える



3 形紙は9割につくま



4 飾りに石炭を一つつけておくとよい

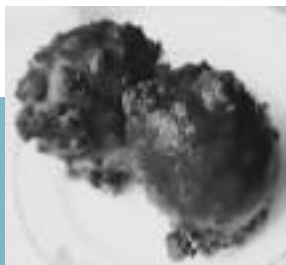


身近な
素材で

特集・遠藤凌子の仕事

台所の素材で

ホヤの殻



殻をカットして
乾燥させる。

魚の皮



皮をはがして遠藤流でなめします。



テグスをとうして楽器風にか
チャカチャといい音

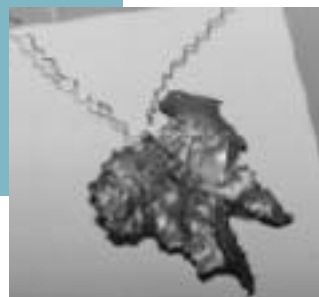
カニの甲羅



▶生乾きの状態
で形にして乾燥
させる。



▶カニのつめを
繋ぎあわせて丈
夫でかわいいも
のです。



カニの甲羅をチョウチョの形に
(紙ではり絵をするのと同じ要領)



国民生活金融公庫のウィンドーディスプレイ



卵の殻を使った人形



米袋染色加工のペーパークラフト



地酒を持ってお嫁入り



トチの葉で作ったミニプラト



人形に洋服を着せて

等身大 ジャズメンオブジェ



ニューズペーパークラフト



環境庁主催エコリサイクルフェアにて

「かわいいから譲ってください」と

ローマの休日から…



ベスバは作りたかった



創作童話 モーリと仲間たちのシーンから



カニの甲羅のオブジェ